

SK PREMIUM SILICONE BIO



SK
PREMIUM
SILICONE
BIO



強力防かび・防藻 超耐候形水性ハイブリッドシリコン樹脂塗料

エスケープレミアム シリコン BIO

バイオ



エスケー化研

エスケーププレミアムシリコン BIO

バイオ

かびや藻などの微生物から建物を護る



日本の高温多湿な気候は、かびや藻の発生に最適な環境です。戸建て住宅やマンションの外壁などに見られる、かびや藻などの微生物汚染は建物の資産価値を損ねるだけでなく、不衛生な環境により人体に害を及ぼす危険性もあります。エスケーププレミアムシリコンBIOは、ラジカルコントロール技術による超耐候性と、特殊設計による強力な防かび・防藻性を有し、長期に亘りかびや藻などの微生物汚染から建物を護ります。

ラジカルの発生を極限まで抑える

ラジカルコントロール技術

性能を長期に亘り持続する

強力防かび・防藻技術

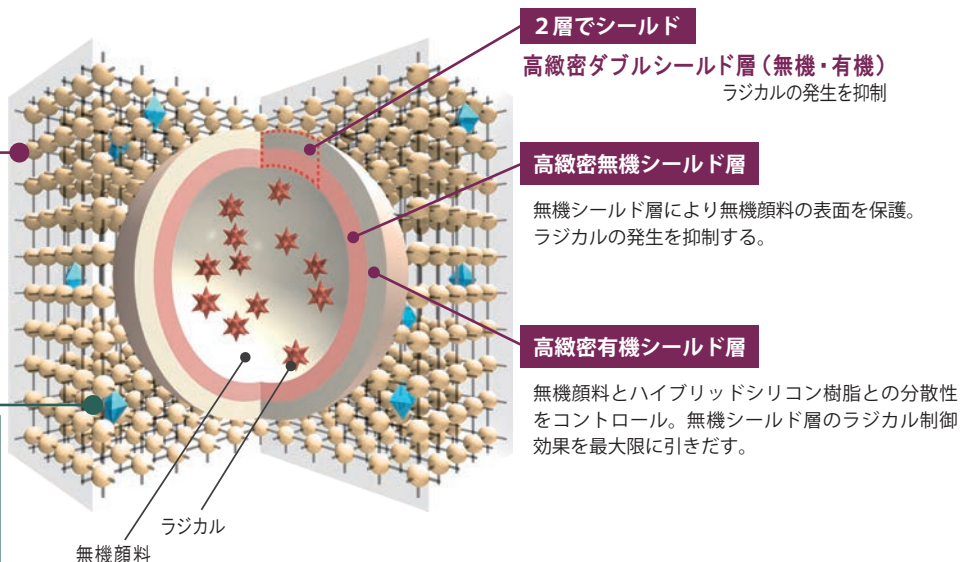
エスケーププレミアムシリコンBIOは独自のラジカルコントロール技術により、塗膜劣化の原因となるラジカルの発生を抑制するとともに、超耐候形特殊ハイブリッドシリコン樹脂の三次元架橋構造によりハイレベルな耐候性を発揮します。また一層強力になった防かび・防藻技術の導入により、優れた耐微生物汚染性能を示すとともに、性能を長期に亘り持続します。

超耐候形特殊シリコン樹脂

強靭な三次元架橋構造により、樹脂の分解を抑制。さらにラジカルキャッチャーが、わずかに発生したラジカルを捕捉する。

強力防かび・防藻成分

藻などの光合成を阻害するとともに、かびの成長を阻害し、繁殖を抑制する。また、防かび・防藻成分を超耐候形特殊ハイブリッドシリコン樹脂の三次元構造により強く固定化することにより、長期に亘り防かび・防藻性を発揮します。



特長

PREMIUM
1



防かび・防藻性

従来の防かび塗料は紫外線や降雨などの経年劣化により、耐微生物汚染性が低下することがありました。エスケーププレミアムシリコンBIOはプレミアムシリコンシリーズの優れた超耐候性に加え、持続力に優れた強力防かび・防藻技術の導入により、長期に亘って優れた耐微生物汚染性を発揮します。

PREMIUM
2



耐候性・耐久性

ラジカルコントロール技術により紫外線（UV）や水等の劣化要因から建物を保護します。また、その塗膜は長持ちするため、塗り替え回数の軽減に寄与します。

PREMIUM
3



低汚染性

水性ハイブリッドシリコン樹脂の緻密な架橋塗膜は汚れを定着しにくくします。

PREMIUM
4



仕上がり性

超微粒エマルジョンからなる滑らかな塗膜は従来の水性塗料と比べ、艶が高く抜群の仕上がり性を提供します。

PREMIUM
5

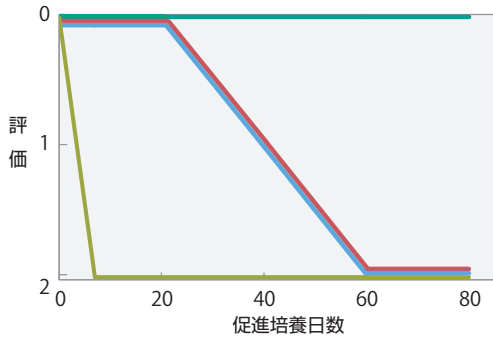


抜群の作業性

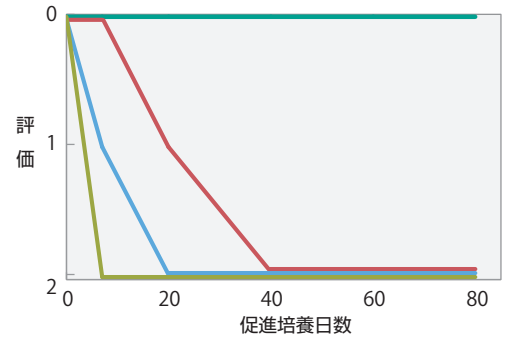
隠ぺい性の高い塗膜と塗り易い作業性により、作業効率を向上させます。

性能

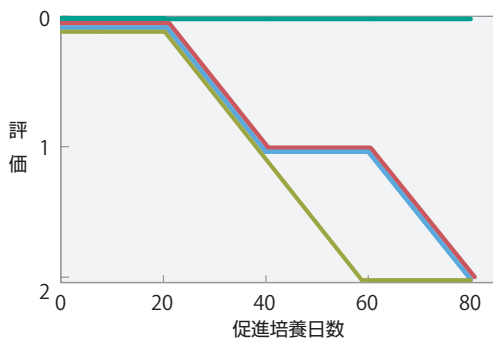
■ 防かび試験結果 (JIS Z2911)



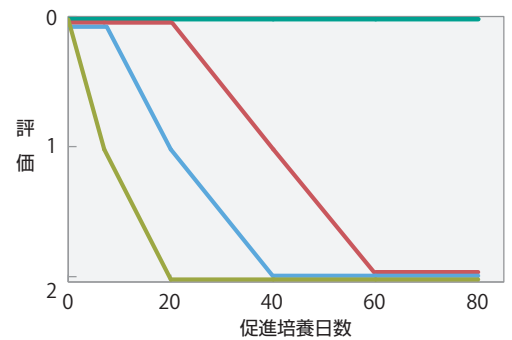
■ 促進試験 (暴露7年相当^注) 後の防かび試験結果



■ 防藻試験結果 (JIS Z2911 参考)



■ 促進試験 (暴露7年相当^注) 後の防藻試験結果

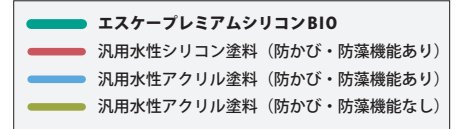


【試験方法】

かび、藻それぞれの寒天培地で浸したシャーレ内に塗膜片を入れ、かび孢子、藻それぞれの懸濁液を蒔きかけ80日間培養する。促進試験は塗膜片を予め促進試験機で劣化させたものを試験に用いた。

【評価】

- 0：試験片の接種した部分に菌糸又は藻の発育が認められない。
- 1：試験片の接種した部分に認められる菌糸又は藻の発育部分の面積は、全面積の1/3を超えない。
- 2：試験片の接種した部分に認められる菌糸又は藻の発育部分の面積は、全面積の1/3を超える。



^注 暴露年数はかびや藻の抑制を保証するものではありません。植物が密生している場合や極端な多湿環境など、使用環境によりかびや藻が発生する場合があります。

殺菌工程

改修工事などで既にかびや藻が発生している場合は、殺菌洗浄剤 (SKKカビ除去剤#5【塩素系】、★SKKカビ除去剤#50【アルコール系】) をご用意しております。一度生えたかびや藻は表層部だけでなく内部に浸透している場合があります。通常の洗浄だけでは再発する可能性がありますので、事前に殺菌洗浄を行うことで、より高い防かび・防藻効果を発揮することができます。

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考
					工程内	工程間	最終養生	
1 殺菌洗浄 ^{※1}	SKKカビ除去剤#5	100	希釈した液を左官ブラシなどに含ませ、汚れた部分にごすりつけるように洗浄してください。さらに汚れた部分とその周辺を洗浄してください。					ローラー、刷毛
	清 水	500~1000						
2 水洗浄	殺菌洗浄後、約2~3時間放置した後、清水で十分洗い流してください。汚れの取れなかった場合は、再度繰り返し洗浄してください。							—
3 殺菌 ^{※2}	SKKカビ除去剤#50	既調合	0.12~0.18	1~2	0.5以上	1以上	—	ローラー、刷毛

※1 塗膜表面に付着した菌の殺菌洗浄工程。 ※2 塗膜内部に浸透した菌の殺菌工程。

荷姿

- エスケーププレミアムシリコンBIO (艶有り、半艶、3分艶、艶消し) … 15kg石油缶 (標準塗坪: 43~68m²)、4kg缶 (標準塗坪: 11~18m²)
- エスケープ弾性プレミアムフィラー …………… 15kg石油缶 (標準塗坪: 15~75m²)
- 水性SDサーフエポプレミアム …………… 15kg石油缶 (標準塗坪: 38~83m²)
- ☆水性ハイブリッドシーラー …………… 15kgセット (標準塗坪: 75~187m²)
- SKKカビ除去剤#5 (塩素系) …………… 18kgポリ容器、5kgポリ容器
- ★SKKカビ除去剤#50 (アルコール系) …………… 16L石油缶、4L缶

※上記の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

■ 用途

戸建て住宅、中低層集合住宅の内外装、店舗・事務所・工場・倉庫などの内外装、学校など公共施設の内外装

^注1 塗装時に光沢が残っている劣化していない塗膜に塗装する場合は、目荒しを行ってください。



【危険情報と安全対策】

- 製品の取り扱いにはそれぞれの安全データシート (SDS) に従ってください。特に、★印のついている製品は溶剤形のため、下記の点にご注意ください。(☆印は硬化剤のみ★に該当)
1. 引火性の液体のため、火気厳禁です。
 2. 有機溶剤中毒のおそれがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは、送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
 3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

【施工後の注意】

本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

標準施工仕様

●改裝【下地：モルタル、コンクリート 既存塗膜：吹付タイル、リシンなど】

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
下地調整	●旧塗膜に脆弱層のある場合は、サンダー及び皮スキ、ケレン棒などを用いて除去し、ミラクファンドKC-1000などで段差修正後、パターンの復元を行ってください。なおセメント系下地調整塗材(ミラクファンドKC-1000、ミラクファンドKC-2000、ミラクファンドKC-3000など)を用いる場合は、下地調整後、水性ミラクシーラーエコーなどの下塗材を塗布してください。 ●高圧洗浄(5~15MPa)にて旧塗膜に付着している塵、ほこり、汚れなどを除去してください。							—	
1	下塗り (薄付け仕上げ)	エスケー 弾性プレミアムフィラー	100	0.20~0.5	1	—	3以上	—	ウールローラー、刷毛
	清	水	5~8	—					
1'	下塗り (厚付け仕上げ)	エスケー 弾性プレミアムフィラー	100	0.5~1.0	1	—	4以上	—	M-9ローラー(マッシュクローラー) リンガン 口径:4~5mm 圧力:392~698kPa (4~6kgf/cm ²)
	清	水	2~8 ※3	—					

●改裝【下地：窯業系サイディング】

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
下地調整	●劣化した塗膜は除去してください。 ●高圧水洗(5~15MPa)にて旧塗膜に付着している塵、ほこり、汚れなどを水洗にて除去してください。 ●劣化した目地材は除去した後、シーリング材による打ち替えを行ってください。							—	
1	下塗り	水性SDサーフェエポプレミアム	100	0.18~0.40	1	—	3以上	—	ウールローラー、刷毛 エアレスブローガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
	清	水	5~10 ※6	—					

●改裝【下地:サイディング(光触媒コーティング、無機系コーティング等を含む)】

※下地調整工程は、上記の【改裝(下地:窯業系サイディング)】の下地調整を参照。

(23℃)

1	下塗り	水性ハイブリッドシーラー 主剤	100	0.08~0.12	1	—	6以上 7日以内	—	ローラー、刷毛 エアレスブローガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
		水性ハイブリッドシーラー 硬化剤	7.14	—					

●上塗り:共通

(23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備考	
					工程内	工程間	最終養生		
2	上塗り	エスケープレミアムシリコンBIO	100	0.22~0.35	2	2以上	—	24以上	ウールローラー、刷毛 エアレスブローガン 吐出量:800~1000ml/分 パターン幅:25~30cm
	清	水	0~8 ※13	—					

* 凹凸が小さく吸い込みが少ない下地の塗り替えの場合は所要量が少なく、吹付けタイル下地等凹凸が大きく吸い込みが多い下地の塗り替えの場合には所要量が多くなります。また、規定所要量を厳守してください。

- ※ 1. この他下塗材として、水性ソフトサーフェエポ(16kg石油缶)、水性ソフトサーフSG(16kg石油缶)もご使用いただけます。
- ※ 2. エスケー弾性プレミアムフィラーの所要量、希釈率は塗装器具により異なります。なお既存パターンや下地の状態により所要量が変わる場合がありますのでご注意ください。
- ※ 3. エスケー弾性プレミアムフィラーの厚付け仕上げの場合の清水での希釈率は、マッシュクローラー塗り時で「2~5」、リジソグ塗り時で「5~8」となります。
- ※ 4. 下地の状態によりシーラーや目荒しが必要な場合があります。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※ 5. 下塗りには必ず指定の材料をご使用ください。また、この他下塗材として、水性ミラクシーラーエコー(クリヤー・ホワイト、15kg石油缶)、溶剤タイプの★ミラクシーラーES(15kg石油缶)、弱溶剤タイプの★液マイルドシーラーES(クリヤー・ホワイト、14kg石油缶)もご使用いただけます。なお、★液マイルドシーラーESを使用する場合、工程間間隔時間を16時間以上としてください。
- ※ 6. 水性SDサーフェエポプレミアムの清水での希釈率は、スプレー塗り時、刷毛・ローラー塗り時共に「5~10」となります。
- ※ 7. この他下塗材として、★マイルドSDサーフェエポプレミアム(15kg石油缶)もご使用いただけます。
- ※ 8. 下地の種類により所要量及び塗回数が異なります。吸い込みの著しい場合は2回塗りしてください。
- ※ 9. 希釈しますと付着力や性能低下などの原因となりますので希釈は絶対にしないでください。
- ※ 10. この他下塗材として、★エスケープハイブリッドシーラーEPD(15kgセット)もご使用いただけます。
- ※ 11. モルタル、コンクリート下地の改裝用としてもご使用いただけます。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※ 12. 水性ハイブリッドシーラーの素地別の所要量の目安は、窯業系サイディングボードで「0.08~0.12」、コンクリート・セメントモルタルで「0.10~0.20」となります。
- ※ 13. 清水での希釈率は、スプレー塗り時で「4~8」、刷毛・ローラー塗り時で「0~8」となります。
- ※ 14. エスケープレミアムシリコンBIO艶消しは、サイディング、ALC等の大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装を避けてください。
- ※ 15. 経年劣化したサイディングボード面への塗装は、表面劣化部分から剥離する場合があります。試験施工を行って付着性を確認の上、本施工に入ってください。
- ※ 16. 無機系コーティングなどが施されたサイディングボード面の中には適用できないものもあります。予め試験施工を実施し付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。
- ※ 17. 硬質塩化や塗装時に光沢の残っている劣化していない塗膜に塗装する場合は、目荒しを行ってください。
- ※ 18. 上塗材の希釈率は、試験塗りにより決定し、それ以降は同一の希釈率にて使用してください。なお、希釈率は色目及び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
- ※ 19. 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- ※ 20. 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠べい性を高めるため、予め隠べい性の良い共色を塗装してください。
- ※ 21. 艶調整品(艶有り以外の半艶、3分艶、艶消しなど)は、被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また濃い色目になると、ローラー塗装時に塗継ぎ箇所が長期間、塗膜が乾く場合があります。また塗り上、本施工に入ってください。
- ※ 22. 上塗材に所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう、所定の乾燥時間を厳守してください。
- ※ 23. 施工当日に降雨、降雪、結露が予想される場合は、施工を中止してください。また、気象の急変などにより、施工中、施工後に降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗膜面に直接雨が当たらないようにしてください。
- ※ 24. 施工部位の、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下部部、笠木など水の切り、窓廻りでの水切りが不十分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下部、雨がかからない部位などは、注意が必要です。
- ※ 25. 上塗材はむらなく均一に塗布してください。低汚染機能を発揮するためには、塗付量の確保が重要な事項です。特に凹部に塗り残しできないよう、注意してください。
- ※ 26. 鉄さび・シーリング材などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。各シーリング材は可塑剤を含まないノンプライドシーリングをご使用ください。

- ※ 27. 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ※ 28. 軽重モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどを使用した高断熱型外壁に塗装する場合は、蓄熱されたり、水の影響や下地の状態、塗装時の環境など、いくつかの条件が重なることでパネルの変形や塗膜の膨れ、割れなどを生じることがあります。ご採用にあたっては、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※ 29. 改裝工事に溶剤系の下塗材をご使用の場合は、溶剤などの影響により旧塗膜を傷め、膨れ、ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- ※ 30. 防かび、防藻性は繁殖の抑制効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件(建物の北面などで常時湿気、水分が滞留しやすい壁面、植栽や森林などが隣接、接触している壁面など)により、防かび、防藻性が十分に発揮されない場合があります。
- ※ 31. かびや藻が付着している場合は、「SKKカビ除去剤#5(塩素系)」にて拭き取るなど、適切な下地処理してから塗装してください。なお酸性洗浄剤との併用は避けてください。
- ※ 32. SKKカビ除去剤#5、★SKKカビ除去剤#50を使用の際は、保護メガネ、保護手袋などをご使用ください。万一、手や粘膜などに付いた場合は、大量の清水で速やかに洗浄してください。
- ※ 33. SKKカビ除去剤#5はさびが発生する可能性があるため、金属部への使用は避けてください。金属部へはアルコー系の★SKKカビ除去剤#50をご使用ください。
- ※ 34. SKKカビ除去剤#5、★SKKカビ除去剤#50をご使用の際は、樹木、植木及び池の観賞魚などに影響を及ぼすおそれがありますので、予め養生を行ってから、施工に入ってください。
- ※ 35. 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- ※ 36. 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- ※ 38. 補修塗材が必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装してください。
- ※ 39. 補修塗料の際、仕上がりの肌違いにより、色目に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に仕上げり性を確認した上で希釈率等を決定してください。
- ※ 40. 刷毛で補修塗料を行う際、スプレー塗りやローラー塗り仕上げ肌違いにより、色目に若干の差を生じることがあります。
- ※ 41. シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により塗膜が密着しないことや汚染することがあります。
- ※ 42. 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- ※ 43. 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗膜面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗膜面の養生を行ってください。
- ※ 44. 基材の洗浄に薬剤を用いた場合、薬剤洗浄後の水洗工程を入念に行ってください。薬剤が被塗面に残存したまま塗装すると塗膜の膨れ、割れ、白化につながる場合があります。
- ※ 45. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の膨れ、白化などが発生する場合がありますので使用は避けてください。
- ※ 46. 塗膜の膨れ、割れ、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- ※ 47. 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、割れ、白化、しみの発生、膨りけなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
- ※ 48. 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生する場合がありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
- ※ 49. 結露等によりしみが発生する場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
- ※ 50. 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上の施工は原則的に避けてください。気温5℃以下での施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- ※ 51. 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所に保管し、できるだけ早くに使い切ってください。
- ※ 52. 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。

